

平成30年度 徳島県立城東高等学校 学校評価 総括評価表

本年度の重点目標

① 人権教育の充実

ア 人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する イ 自他を大切に作る心や態度を育成する ウ 家庭への啓発活動を推進する

② 学習指導の充実

ア 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る イ 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る
ウ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る

③ 進路指導の充実

ア 生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる
イ 生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細やかな指導を充実させる
ウ 進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う

④ 生徒指導の充実

ア 社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的生活習慣の確立を図る イ 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する
ウ 良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える
エ 生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する

⑤ 特別活動の推進

ア ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する イ 部活動を充実させる
ウ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる

⑥ 健康教育の推進

ア 正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達を促進を図る
イ 学校の教育活動全体を通して、世界の人々の健康と環境問題についての学習を展開する
ウ 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図るとともに教育相談活動の一層の充実を図る

⑦ 環境教育・安全教育の推進

ア 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る イ 校内外の環境美化活動を推進する ウ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する

⑧ 読書活動の推進

ア 生徒の望ましい読書習慣の形成を図る イ 生徒の自主的な読書活動を推進する

⑨ グローバル人材の育成

ア 異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る イ 国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る

⑩ 開かれた学校づくりの推進

ア 教育活動の積極的な公開を推進する イ ホームページ等を利用した積極的な情報発信を推進する ウ 地域社会、PTA、同窓会との連携を図る

⑪ 教職員の資質向上

ア 校務運営体制の効率化と充実を図る イ 教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る ウ 校内外の研修を通じて指導力の向上を図る

1 人権教育の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方針
	評価指標	人権教育に関するアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① 人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する	① 人権に配慮した教育活動ができている割合 生徒 85%以上 保護者 85%以上 教員 100%	① 生徒 84.8% 保護者 86.2% 教員 97.6%	B B B	(評定)	人権HR活動や人権啓発行事、ボランティア活動など、人権啓発活動の自主活動の高揚を図る。生徒の権利意識を高めるための取り組みを実施している。生徒の権利に対する意識がどの方向に向いているかを捉え、講演会や掲示に反映する。生徒に対する進めたい。また、肯定的な回答が増えるよう効果的な職員研修を考えたい。様々な取り組みを行っているが、今後もさらに効果的な取り組みを考え、実行に移していきたい。それぞれの取り組みが有機的に繋がっていくように工夫していきたい。	
						② 生徒の人権意識の向上度 80%以上
② 自他を大切にする心や態度を育成する	② 生徒の人権意識の向上度 80%以上	② 85.9%	A	B	学校関係者の意見	
③ 家庭への啓発活動を推進する	①-1 「人権週間」の回数 年間4回を設定	①-1 4回実施	B			
	①-2 教職員人権研修会の実施回数 年3回	①-2 3回実施	B			
	② 人権委員会、Know サークルによる啓発資料掲示回数 4回以上	② 4回実施	B	(所見)	充実していると思う。人権教育を含めて、人としてどう考えて行動するか、大人になるためにもとても大事であるから大事にしてほしい。人権問題の多様化で対応も難しくなっていると思う。	
	③-1 「人権教育展」の回数 年3回	③-1 3回実施	B			
	③-2 校誌の人権コーナーを充実	③-2 生徒の活動・作品を掲載	B	今年度は、講演会の内容を受けて人権委員会を招集し、募金活動を行った。話を聞くだけで終わらず、全校生徒に再度意識してもらうという意味では有効であった。人権啓発作品展では、人権委員をはじめ全校生徒の協力のもと、多くの作品を校内に掲示することができた。また、「人権に関する児童・生徒作品」の作詩作曲部門で、教育長賞、理事長賞を受けた。		
	活動計画	活動計画の実施状況				
	①-1 ・年間4回「人権週間」を設定する。 ・ホームルーム活動の活性化を図るため城東人権ゼミを充実させる。 ・人権啓発行事（コンサート・映画・講演会等）を実施する。	①-1 ・HRの実態に即した授業展開や人権講演会の運営に関する事前検討会や事前研修に活動した。 ・11月に人権講演会を開催した。NPO法人ハロハロ代表の成瀬悠さんに「世界の困りごとを自分ごとにする」という表題でお話いただいた。				
	①-2 ・人権意識高揚のための職員研修会を年間1回実施する。	①-2 「同和問題の現状と課題」（12月）を実施した。				
	② ・人権標語の募集、展示をする。 ・特別支援学校との交流をする。 ・校内に人権啓発に関するパネルを固定し、人権委員会やKnow サークルの活動として、掲示物の作成に取り組む。（年間4回以上） ・自主活動の場として、「中・高生による人権交流事業」に積極的に参加する。	② ・人権標語や人権啓発作品を全校生徒から募集し人権展で掲示した。 ・講演会のテーマに関わる展示などを校内パネルに展示した。 ・人権委員会代表者が人権交流事業に参加した。				
	③-1 ・PTA総会・城東祭（文化祭）や「とくしま教育の日」に「人権教育展」をそれぞれ開催する。	③-1 5月、9月、11月に実施した。				
	③-2 ・校誌の人権コーナーを充実し、保護者への啓発活動を確実なものとする。	③-2 ・校誌の人権に関するページに生徒の作品等を掲載した。				

2 学習指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策						
	評価指標	授業に関するアンケート（生徒）	評価指標による達成度	評定	総合評価							
① 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る ② 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る ③ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る	①	授業の工夫改善度	各教科 80%以上	①	工夫改善度	80%以上 5教科 (平均 77.4%)	B	(評定) B (所見) 評価指標による達成度によると、学習に対する動機づけ度は目標を達成した意図が、授業の工夫改善度は達成できなかった。予習への取り組み度は昨年より下回った。一方で復習への取り組み度は昨年重視の意識が窺えた。また、生徒の学習時間においては、1・2年生ともに目標が達成できた。学習時間が30分未満の生徒は全学年、各学年、半数を超える生徒が平均学習時間3時間以上であった。活動計画については、公開授業、家庭学習時間調査、授業時数の確保等、概ね順調に実施されており、良い成果を上げている。また、教科研究会についても各教科で、学期毎に実施している。				
		学習に対する動機付け度	80%以上		動機付け度	84.3%			A			
		学習に対する意欲度	80%以上		意欲度(興味・関心をもてる)	80%以上 2教科 (平均 72.1%)			C			
	②	予習への取り組み度	50%以上	②	予習への取り組み度	32.7%	C					
		復習への取り組み度	50%以上		復習への取り組み度	66.2%			A			
		進路希望にあったコース(教科・科目)の満足度	80%以上		生徒の満足度	92.8%			A			
	③	相互参観授業の回数 授業公開の回数	各教員年 4回 2回	①	相互参観授業年 4回以上実施 授業公開年 2回実施	B B	B					
					②				生徒の学習時間(1日あたり)	②	(4~12月)	A A B
									30分未満の生徒の割合		0%	
	3時間を超える生徒の割合	50%以上	1年 55.1% 2年 59.3%	A								
1日あたりの平均学習時間	3時間以上	1年 3.0時間 2年 3.1時間	B									
③	教科研究会の開催回数	3回	③	各教科平均 年 3回以上実施	A	A						
				活動計画			活動計画の実施状況					
				①			<ul style="list-style-type: none"> 教科研究会を定期的実施し、授業力の向上・指導案の研究をする。 シラバスの改訂を行う。 相互参観授業等で他の教員の授業を参観し授業力の向上を図る。 	①	<ul style="list-style-type: none"> シラバスを作成し、ホームページに掲載した。 公開授業2回で相互参観を実施した。 			
②	<ul style="list-style-type: none"> 第1学年で英語、数学、国語の学習ガイダンスを4月に特設授業の中で実施する。 好ましい学習態度を理解させる。 予習・復習、授業の受け方を指導する。特に予習の大切さと授業との効果的連動については、学期始めやテスト終了後など授業の中で折りに触れ教科担任から指導する。 家庭学習時間調査を毎日実施する。 週末課題、週末テストを実施し、家庭学習の習慣化を徹底する。 学年団による学習指導、生活指導の充実を図る。 基礎学力養成講座、再テストを実施する。 	②	<ul style="list-style-type: none"> 英数国理社の学習ガイダンスを実施した(4/12,13)。 予習・授業・復習といった学習サイクルの確立について、授業始めのガイダンスやテストの際などに教科担任やクラス担任が指導した。 家庭学習調査を毎日実施した。 各教科で課題等を実施した。 サクセス週間で学習指導等を実施した。 基礎学力養成講座を実施した(8/17,20)。再テストは2回実施した(8月,1月)。 									
③	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の精選、定期考査の工夫を行い、授業時数を確保する。 教育課程検討委員会において、教育課程やコース制の在り方等を検討する。 	③	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査最終日に授業を実施した。 平成31年度教育課程を一部改良して編成した。 									
						学校関係者の意見						
						コース選択100%を達成するため入学前にコース情報を得る機会が必要である。動機付け度が高いのはすばらしいと思う。						

3 進路指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	進路指導に関するアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる	① 総合学習「クエスト」の有用度	80%以上	① 生徒 74.0%	C	(評定)	SGH事業が終了したことで、改めて、城東高校のめざすグローバル人材を定義し直し、活動計画を継続事業として、新規計画を慎重に検討していきたい。
	② 城東ゼミ（補習）の有用度	70%以上	② 生徒 69.6% 保護者 87.1%			
②生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細かな指導を充実させる	③ 進路情報の学校の提供度	80%以上	③ 生徒 87.8% 保護者 82.8%	A	B	新しい大学入学者選抜に備え、基礎学力の定着、思考力・判断力・表現力育成に加えて、主体性を育て、多様な人々と協働して学ぶ態度の育成が、必要不可欠の研修・資格・検定の取得に積極的に参加する姿勢を身につけたい。
	①-1 大学見学・企業見学の回数	各1回以上	①-1 大学2回・企業見学1回	B		
③進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う	①-2 大学等授業体験の実施回数	1回以上	①-2 1回（10/15～17）実施	B	B	学校関係者の意見
	①-3 職業ガイダンスの回数	1回以上	①-3 1回（1/17）実施	B		
	①-4 省庁・国際機関での研修回数	各1回以上	①-4 外務省1回、国際機関2回	B	B	
	②-1 城東ゼミ（補習）の開設講座数	100講座以上	②-1 城東ゼミ講座数107講座	B		
	②-2 国公立大学合格者数	200名以上	②-2 未	B	B	
	②-3	・東京大、京都大 合格者数 10名以上 ・医学部医学科 合格者数 10名以上 ・大阪大、神戸大 合格者数 30名以上 ・難関10大学 合格者数 50名以上	②-3 未 ・東京大、京都大 未 ・医学部医学科 未 ・大阪大、神戸大 未 ・難関10大学 未			
	②-4 校外模試偏差値70以上	30名以上	②-4 70以上 1年 47名 2年 38名	B	B	
	②-4 校外模試偏差値60以上	130名以上	60以上 1年 160名 2年 124名 (3教科(1/19実施)進研模試)			
	②-5 SGH・課題研究発表会の回数	2回	②-5 2回（7/21, 2/14）	B	B	
	②-6 各種コンクール応募数	200以上	②-6 84	C		
	②-7 学力テスト講評の配布回数	11回以上	②-7 学力テスト講評11回配布	B	B	
	③ 進路説明会の開催回数	3回(各学年1回以上)	③ 進路説明会回数 4回実施	B		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)			
	①-1 東京・京都大学見学を実施する。 ・企業研修を実施する。 ・オープンキャンパスへの参加を推奨する。	①-1 東大6名(8/1～3)、京大125名(8/9～10)、企業研修1年全員(9/21)が参加した。	企業研修、大学授業体験及び企業研修等は計画通り実施し、一定の評価を得た。しかし、「クエスト」有用度は昨年71.7%より若干向上したが、コンクール等への応募も目標に達しなかった。			
	①-2 第2学年での大学等体験授業を実施する。	①-2 81名(10/15～17)が受講した。	模試分析会を1、2年でも年3回実施することにより、学年の問題点をいち早く見つけ、学習指導や生徒指導に活かすことができた。今年度は模試の成績推移から生徒のスマホ利用の			
	①-3 第1学年での職業ガイダンスを実施する。	①-3 講師20名が来校した。				
	①-4 外務省・文科省等での研修を実施する。	①-4 FAO, JICA 関西, WHO 神戸センター等でのべ81名が研修に参加した。				
	②-1 補習を実施する。毎週38講座(3年生) 38講座(2年生) 24講座(1年生)	②-1 毎週43講座(3年)、40講座(2年)、24講座(1年)を開講した。				
	②-2 進路検討会を第3学年で年4回実施する。	②-2 3年4回実施した。				
	②-3 難関大対象模試を各学年2回以上実施する。	②-3 1年2回、2年3回、3年2回実施した。				

②-4 模試分析会を第1, 2学年で3回実施する。	②-4 1, 2年共に3回実施した。	仕方の問題点が浮かび上がり, 3学期からのスマホ利用の仕方の改善に結びつくことができた。
②-5 第2学年で課題研究発表会, 第3学年でSGH発表会を実施する。	②-5 中四国SGH発表会(7/21), 課題研究発表会(2/14)を実施した。	
②-6 各種コンクールへの応募を督促する。	②-6 15の大会等に応募した。	
②-7 学力テストの講評を全学年で延べ11回配布する。	②-7 学力テスト講評を11回配布した。	
③ 進路説明会を実施する。(各学年1回) ・最難関大学進学希望者説明会を実施する。 ・難関大学, 医・歯・薬学部進学希望者説明会を実施する。	③ 1年1回, 2年1回, 3年2回実施した。 ・3年1回実施した。 ・1年1回2年2回実施した。	

4 生徒指導の充実

重点目標	評価指標 (と活動計画)		評価			次年度への課題と今後の改善方針
	評価指標	生徒指導についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ, 基本的な生活習慣の確立を図る	①-1 服装・頭髪が守れている割合 生徒85%以上・教員85%以上	①-1 服装・頭髪が守れている割合 生徒85%以上・教員85%以上 ①-2 あいさつが身につけている割合 生徒85%以上・教員85%以上 ①-3 ルール・マナーを守っている割合 生徒85%以上 ③ いじめを未然に防止するための積極的な取り組み (面接・アンケート2回) ④ 組織的な生徒指導ができている割合 教員85%以上・保護者85%以上	①-1 生徒 90.3% 教員 90.2%	A A	(評定)	駐輪場のマナーアップ運動・部活動生徒によるあいさつ運動等の, 生徒が中心となって行う活動を継続させたい。 携帯電話・スマートフォンの利用の仕方を見直し, 継続指導や講演会を行いたい。 生活委員会で, 生徒から出てきた守るべきルールを, 各学期毎にまとめ, 全校生徒に意識をさせたい。
	①-2 あいさつが身につけている割合 生徒85%以上・教員85%以上		生徒 75.7% 教員 65.9%	C C		
	①-3 ルール・マナーを守っている割合 生徒85%以上		生徒 87.3%	B		
	③ いじめを未然に防止するための積極的な取り組み (面接・アンケート2回)		面接・アンケート2回	B		
②学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する	④ 組織的な生徒指導ができている割合 教員85%以上・保護者85%以上	④ 教員 75.6% 保護者 91.7%	C A	B		
③良好な対人関係を構築できる社会性を育み, いじめを未然に防止する態勢を整える	①-1 生活委員・部活動生徒による登下校でのあいさつ運動・駐輪場のマナーアップ運動の実施回数 3回	①-1 各部活動につき1回, あいさつ運動を実施した。 駐輪場のマナーアップ運動	A	A		
④生徒との信頼関係を確立し, 家庭との連携を指導を展開する	①-2 交通マナーアップ運動実施回数 1回	①-2 交通マナーアップ運動2回 3月に実施	A B	B	学校関係者の意見	
	② 道徳教育のHR活動の回数 1回	② 3月に実施	B	B		
	③ いじめに関するHR活動の回数 2回	③ いじめの未然防止を目的にしたHR活動を2回実施	B	B		
	④ クラス分析会の実施回数 3回	④ 年間3回実施した。	B	B		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)			
	①-1 各学年での服装・頭髪指導を充実させる。(年3回) ・生活委員・部活動生徒によるあいさつ運動・駐輪場のマナーアップ運動を各学期それぞれ1回実施する。	①-1 各学年の生徒課員を中心に年間3回行った。 ・各学期に生活委員が駐輪場のマナーアップ運動を行い, 全ての部活動が1回あいさつ運動を行った。	昨年度に引き続き, 服装・頭髪については, 生徒・教員ともに達成度が90%を超えた。全体的に見て大きく違反している生徒は見られなかった。 あいさつについては, 生徒・教員ともに低い数値が出ている。休み時間, 廊下等でのあいさつができていないのかもしれない。		スマートフォン使用について学校で指導するのは保護者にお願いしたい。子ども達には身近なスマホに慣れているから, その機会をえんと大きく考えないで声を大きく出す。組織的な生徒指導ができていないのは、教員と保護者の連携ができていないから、その機会をえんと大きく考えないで声を大きく出す。組織的な生徒指導ができていないのかもしれない。	

	<p>者を呼んで指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通マナーアップ運動、携帯電話・スマートフォン講演会などを通じて、全校生徒に社会のルールを守ることやマナー指導を行う。 <p>② 道徳教育に関するHR活動を各学年で実施する。</p> <p>③ クラス分析会を定期的開催し、生徒の状況等について情報交換を行う。及び、重要な対策等が必要なときは、いじめ防止等対策委員会を開き協議を行う。</p> <p>④ 様々な問題を抱えた生徒に対して、学年や部活動顧問及び生徒課等が連携し、多方面から生徒の家庭状況や心身の把握に努め、個々にあった適切な指導を模索し、効果的な指導に努める。</p>	<p>者には担任から指導を行った。(保護者に協力依頼)</p> <ul style="list-style-type: none"> 携帯電話・スマートフォンの利用についての講演を行った。 <p>② 3月に各HRで実施した。</p> <p>③ 学年毎にクラス分析会を行い、生徒の情報共有が行われている。いじめ防止等対策委員会については、該当する案件がなく開催していない。</p> <p>④ 問題を抱えた生徒に対しては、関係教員と連携をとり、個別面談や保護者との面談を行う。スクールカウンセラーに相談を依頼し、問題解決に向けての連携を図った。</p>	<p>駐輪マナーが良くなったが、登下校時の事故は増加した。</p> <p>携帯電話・スマートフォンの利用の仕方が悪く、生活に乱れが出る生徒が出てきた。3学期から、携帯電話・スマートフォンの使用法の見直しを決め、実行した。</p> <p>いじめに関するアンケートについては、昨年と同じ時期に行い、面接週間を利用して相談しやすい状況を作った。</p>	<p>者の評価での差が大きいので理由を分析して数値を比較してもよいのではないかと思う。</p>
--	---	---	---	---

5 特別活動の推進

重点目標	評価指標 (と活動計画)		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	特別活動についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する	①	生徒会活動が活発である割合	生徒 90%以上 保護者 85%以上 教員 95%以上	生徒 80.7% 保護者 80.7% 教員 87.8%	C C C	(評定) B
		② 部活動の入部率	90%以上	89.8%	B	
		③-1 募金活動などのボランティア活動に積極的に取り組む割合	75%以上	生徒 72.8% 保護者 69.1%	B B	
② 部活動を充実させる	③-2	清掃ボランティア満足度	95%以上	生徒(1年) 98.4% 生徒(2年) 97.1%	A	B
③ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる		③-3 1・2年生全員による清掃ボランティア活動の実施回数	1回以上	③-3 清掃ボランティア活動を2年は5/18, 1年は10/12に実施した。	B	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)			学校関係者の意見
	① ・生徒会活動や学校行事への積極的参加を促す。 ・朝のあいさつ運動を実施する。 ・委員会活動を充実する。	① ・生徒会で朝のあいさつ運動を実施した。 ・生徒会、各種委員会では学校祭の運営や各委員会活動を行った。	昨年度に引き続き生徒会役員、生徒会執行部員(計80名)が協力して目に見える形での活動を主体的に実施することができた。 部活動でも、文化部・運動部ともに活発に活動し、例年同様種々の大会において			
	② ・部活動と学習面との両立を図る。	② ・平日午後8時完全下校を実施	文化・運動ともに活躍が光っている。一方で、生徒数の減少に従い、休部の考えも仕方のないことである。部活動、先生だ			

	<ul style="list-style-type: none"> ・下校時間を遵守する。 ・朝のあいさつ運動を実施する。 <p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動への積極的参加について、生徒会執行部やJRCとの協力の中で実践する。 ・地域（施設や諸学校など）に根づいたボランティア活動を実践する。（生徒会・Know サークル・邦楽部・オーケストラ・合唱部・茶道部・華道部・外語部・書道部など） <p>③-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会や体育部による学校周辺の清掃活動を実施する。 ・1・2年生全員による市内道路等の清掃ボランティア活動を年1回以上実施する。 ・ボランティア活動について、日時や内容などをHPを使って情報提供する。 	<p>した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての部で朝のあいさつ運動を実施した。 <p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JRCと協力して海外助け合い運動、歳末助け合い運動に参加した。 ・邦楽部がデイケアセンター訪問を実施。 ・外語部が外国人児童対象の日本語教室でボランティア活動をした。 ・徳島マラソンボランティアに参加予定。（平成31年3月 131名） <p>③-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育部による朝の学校周辺清掃活動を継続して実施している。 ・清掃ボランティア活動を2回実施。 ・清掃ボランティア活動の様子をHPに掲載した。 	<p>て、数多くの部が上位の成績を収めた。</p> <p>ボランティア活動では、生徒会や部活動で積極的に参加することができた。（個人参加のボランティア活動については、実数は不明）清掃ボランティア活動についても昨年同様1・2年生がそれぞれ1回ずつ実施した。多くの生徒が学業のみならず部活動やボランティア活動に積極的に参加し、「文武両道」の実践に取り組んでいる。しかしながら所属している部活動の充実度が昨年度より12.1ポイント下がっており、より充実感を得られる活動を模索していきたい。</p>	<p>では時間的・業務的に大きな負担が必要で、活動の周知の徹底など、今後の改善策を模索していきたい。</p>
--	--	--	---	--

6 健康教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価				次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	保健・教育相談のアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価		
①正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達の促進を図る	①	保健室の生徒への応急処置や心の悩み等への対応の良好の割合 80%以上	① 生徒 86.5%	A	(評定)	生徒が世界の健康問題や環境問題について理解が深まったと感じるためには、授業や学校生活全般を通して取り組み、保健日よりや掲示板の活用を工夫していきたい。	
	②	世界の健康と環境問題についての理解を深める割合 75%以上	② 生徒 75.1%	B	A	生徒の心身の健康問題への適切な対応や予防に努め、生徒が安全で健康な学校生活を送れるように支援していきたい。	
	③	親身になって生徒の悩みや相談に応じてくれる割合 85%以上	③ 生徒 83.2%	B	A	昨年度よりスクールカウンセラー配置校に指定されたことにより、校内での安定した支援システムの構築を目指している。	
②学校の教育活動全体を通して、世界の人々の健康と環境問題についての学習を展開する	①-1	「保健だより」の発行回数 12回以上	①-1 14回発行	A	A	潜在的に活動し、文化祭では健康問題に関する展示の準備など積極的に参加できた。	
	①-2	尿検査の提出率 100%	①-2 100%	A	A	保健室の対応については、昨年に続いて高い評価	
	①-3	「保健だより」の「食育」コーナーの設置回数 6回以上	①-3 14回	A	A	は、昨年に続いて高い評価	
③一人一人に応じた特別支援教育の推進を図るとともに教育相談活動の一層の充実を図る	②	「保健だより」の「Global Health」コーナーの設置回数 10回以上	② 14回	A	A	は、昨年に続いて高い評価	
	③	職員研修会に対するアンケートの満足度 90%(平均)	③ 95.1%	A	A	は、昨年に続いて高い評価	
	活動計画		活動計画の実施状況				
	①	・保健委員会での生徒の自主的活動を推進する。 ・文化祭での展示等により、健康増進への啓発を図る。 ・各教科・各課と連携し、食育啓発を図る。	①	・保健委員は、シャボネットの補充やアルコール消毒液の点検を定期的に行った。また、心肺蘇生法講習会に参加し、救急法への理解を深めた。			

	<p>・「保健だより」に「食育」コーナーを設け、興味・関心を深める。</p> <p>② 各教科・各課と連携し、世界の人々の健康と環境問題解決への啓発を図る。</p> <p>・「保健だより」に「Global Health」コーナーを設け、興味・関心を深める。</p> <p>③-1 特別支援教育に関する職員研修会を1学期、2学期にそれぞれ1回実施する。</p> <p>③-2 各学年会を利用して、気になる生徒についての情報交換を定期的に行い、心身や生活面、学業などについて悩みや問題を抱えている生徒を早期に発見し、支援を行う。</p> <p>③-3 カウンセラーや専門機関と連携した教育相談活動を充実する。</p>	<p>・文化祭では、徳島保健所と連携し保健展を開催し、保健師、栄養士など専門分野の方々を招き、「生活習慣」や「健康問題」のコーナーを設け指導や助言をいただいた。</p> <p>・毎号の「保健だより」では、食についての記事を掲載した。</p> <p>② 授業や「保健だより」、保健室前の展示を利用して健康と環境問題を扱った。</p> <p>③-1 校内研修会を実施した。(7/10)</p> <p>③-2 学年会での情報交換に加えて保健室やスクールカウンセラーとの連携により生徒への早期の対応・支援を行った。</p> <p>③-3 生徒や保護者に広報し、保護者から直接依頼されるケースも増えた。教育相談の利用状況は、開室日数が24日であり、のべ利用数は1年(33回)2年(26回)3年(18回)である。</p>	<p>を得た。個に応じた丁寧な対応を心がけている。世界の問題についての理解が深まった生徒の割合は、昨年より数値が下がった。</p> <p>カウンセラーの先生に定期的に教育相談を行っており、教員と協力して、生徒や保護者に必要とする生徒や保護者に支援ができたケースが多い。カウンセラーの教育相談をからも申し込みやすくなった。</p> <p>職員の校内研修は、学校の実態に応じた内容であり、学年主任や担任が連携することで情報を共有し、それぞれの生徒に合った方法で話している。</p>	<p>足している状態であり、改善に向けて取り組みたい。</p> <p>学校関係者の意見</p> <p>引き続き、悩みを話しや環境の整備をお願いしたい。入る・友人なり登校も心配するにたいし、対応しようがないと思うが、先生が前向きに考えていると思う。</p>
--	--	--	--	---

7 環境教育・安全教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	環境教育に関するアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る	①	環境美化活動に積極的に取り組んでいる割合 80%以上	① 生徒 78.0%	C	(評定)	アンケートの結果にもよるが、生徒の清浄意識が、今年は十分でなかったと考える。声をかける生徒もたくさんいるので、来年度は意識を変える試みを行いたい。
	②	清掃活動に熱心に取り組む、美しい環境を保つよう心掛けている割合 80%以上	② 生徒 77.0%	C		
② 校内外の環境美化活動を推進する	②	環境委員による清掃奉仕活動（放課後）の実施回数 5回以上	② 環境委員による清掃奉仕活動を12月までに5回実施、3学期にも2回実施予定	B	B	今年度も、豪雨災害や地震など、各地で頻繁な災害に見舞われ、避難者や被災者など、様々な問題が次々発生している。対策は一つ一つ実践していく必要がある。防災クラブは、今年も6名が取得試験に合格する予定。しかし、生徒は意欲を見せ
	③-1	避難訓練の実施回数 2回	③-1 5月地震津波を想定した訓練を、10月に火災を想定した訓練を実施	B		
③ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する	③-2	心肺蘇生法の講習会を実施	③-2 教職員を対象にした講習会を7月に、運動部の部員を対象にした講習会を11月に実施	B		
	活動計画		活動計画の実施状況		(所見)	

<p>① ・節電・節水を呼びかける。 ・環境問題に関する記事を掲示する。</p> <p>② ・毎日の清掃を徹底する。 ・環境委員による校内や学校周辺の清掃奉仕活動を実施する。</p> <p>③-1 防災訓練の実施及び避難経路を確認する。</p> <p>③-2 職員・生徒への心肺蘇生法の講習会をそれぞれ1回以上実施する。</p> <p>③-3 「防災クラブ」の活動を推進する。</p>	<p>① ・環境委員が各HRで呼びかけた。 ・環境問題に関する新聞記事や校内の電気と水道の使用量に関するデータをグラフ化して掲示した。</p> <p>② ・環境委員が各HRで呼びかけた。 ・環境委員や学年による清掃奉仕活動を行った。</p> <p>③-1 避難訓練を2回、初動対応訓練2回行った。</p> <p>③-2 職員対象に1回、生徒対象に1回実施した。</p> <p>③-3 生徒が防災活動や防災に関する啓発活動を行った。また今年度も6名の「防災士」の認証を受けた。</p>	<p>生徒対象のアンケートでは「環境美化」、「清掃活動」とも積極的に回答がとれ、80%を回した。ここ2年は上回っていた。ただ残念な結果となった。</p> <p>定期的に行っている清掃奉仕活動は、今年も機会を見つけて行った。</p> <p>避難訓練は設定を微妙に変えて工夫して行った。</p> <p>心肺蘇生法の講習は運動部の希望者対象に1回、教職員を対象に1回行った。</p> <p>防災クラブは、文化祭での避難シミュレーションゲーム、生徒対象防災研修や主催、避難訓練の準備や補助など地道な活動を行った。防災士の資格取得にも積極的に挑戦して成果を上げた。</p>	<p>徒にとって、放課後もやるべきことが多く、活動する時間がとれないのが大きな課題である。</p> <p>学校関係者の意見</p> <p>活動が形骸化しないよう工夫をして、参加型な生徒の意識に残るようなどしてほしい。環境美化にも適切に実施され、良い環境で学ぶこと、交通安全などに関わるので一層の指導をお願いします。</p>
--	---	---	---

8 読書活動の推進

具体的目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	読書活動についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① 生徒の望ましい読書習慣の形成を図る	①-1	読書活動に学校として積極的に取り組んでいる割合 65%以上	①-1 生徒 68.1% 教職員 95.1% 保護者 77.0%	B A B	(評定)	今年も、国際的視野をなげ、助となるような書籍を「ライブラリー」や展示など紹介したり、国語と英語の教科書を取り上げ、本の特色や集展を深めたり、図書館を本活用の場として活用し、読書の楽しさを広げたい。
② 生徒の自主的な読書活動を推進する	①-2	生徒一人あたりの年間図書貸出数 5.5冊以上	①-2 3.6冊（12月末現在）	C	B	
	②-1	読書会、読書週間の実施回数 読書会 2回以上 読書週間 2回以上	②-1 読書会 4回 読書週間 2回	A	B	
	②-2	ツールとして、図書館の資料を活用するスキルを身につけている割合 75%以上	②-2 生徒 91.8% 保護者 75.8%	A B	B	
	活動計画	活動計画の実施状況	①-1 ・読書週間を2回実施し、朝読書をはじめとする行事を行った。(4/23~4/27, 10/15~10/19) ・学校ホームページの「図書館だより」の中に図書館情報を掲載	(所見)	読書活動に関するアンケート結果は、昨年比ほとんど変わらず。貸出冊数は、12月末現在、3,439冊(昨年度3,472冊) 生徒一人あたりの図書貸し出し数は	次年度も、本年度の取り組みをさらに広げ、今年以上に読書への関心を高め、また図書館を利用する機会を増やすこと、読書の楽しさを広げたい。

<p>る。</p> <p>①-2 読書会を1・2学期にそれぞれ1回以上実施する。</p> <p>②-1</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書委員を中心に、読書会・読書週間を利用して読書啓発を行う。 生活記録の「読書」欄を利用し、読書への関心・意欲を高める。 <p>②-2</p> <ul style="list-style-type: none"> SGHをサポートし、国際的視野を広げる一助となるように関連書籍を「ライブラリーニュース」や展示などで、紹介していく。 生徒により興味・関心を持たせるような展示にするよう工夫する。 	<p>した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ライブラリーニュース」を8月を除いて毎月発行し、新着本はより詳しく内容を紹介するなど、本に興味を持てる工夫をおこなった。 <p>①-2 読書会は、1学期に「ビブリオバトル」、2学期に「哲学カフェ」を3回、計4回実施し、活発に意見交換等できた。</p> <p>②-2 「国語と英語の教科書に取り上げられた本・さらに理解を深める本」「映像化された本・される本」の展示を通常で実施した他、折りに触れ、本の紹介をおこなった。</p>	<p>3. 6冊（昨年度3.7冊）とほぼ変わらず。ただし昨年の一人あたり4.6冊の実績や、目標とする一人あたり5.5冊からすると低い。</p> <p>1学期に実施した読書会企画「ビブリオバトル」は、HR活動でも取り上げられ、クラス単位で取り組むHRがあった等、広がりが見られた。また2学期に実施した「哲学カフェ」は、じっくりと物事を考えた。生徒の居場所となりえた。</p> <p>生徒の読書への興味を引くように、展示の小説やエッセイを増やし、論文の学習や、SGHの調べものや、SGHの調べもの利用を促すことと、書籍の利用を増やそうと、今まで以上に図書館を利用し、生徒へのアプローチにもなった。</p>	<p>3. 6冊（昨年度3.7冊）とほぼ変わらず。ただし昨年の一人あたり4.6冊の実績や、目標とする一人あたり5.5冊からすると低い。</p> <p>1学期に実施した読書会企画「ビブリオバトル」は、HR活動でも取り上げられ、クラス単位で取り組むHRがあった等、広がりが見られた。また2学期に実施した「哲学カフェ」は、じっくりと物事を考えた。生徒の居場所となりえた。</p> <p>生徒の読書への興味を引くように、展示の小説やエッセイを増やし、論文の学習や、SGHの調べものや、SGHの調べもの利用を促すことと、今まで以上に図書館を利用し、生徒へのアプローチにもなった。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>ビブリオバトル、哲学カフェにより興味を持つ生徒が増えれば、プレゼン力や読解力が高まると思える。スマフォなどで読書の数が減らないか。</p>
---	--	--	--	--

9 グローバル人材の育成

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方針																																		
	<table border="1"> <tr> <th>評価指標</th> <th>グローバル人材の育成についてのアンケート</th> </tr> </table>	評価指標	グローバル人材の育成についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価																																	
評価指標	グローバル人材の育成についてのアンケート																																						
① 異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る	<table border="1"> <tr> <td>①② 国際交流・国際理解教育に積極的に取り組んでいる割合</td> <td>生徒 90%以上 保護者 90%以上 教員 90%以上</td> </tr> </table>	①② 国際交流・国際理解教育に積極的に取り組んでいる割合	生徒 90%以上 保護者 90%以上 教員 90%以上	<table border="1"> <tr> <td>①②</td> <td>生徒 89.7% 保護者 89.5% 教員 97.6%</td> </tr> </table>	①②	生徒 89.7% 保護者 89.5% 教員 97.6%	<table border="1"> <tr> <td>B B A</td> </tr> </table>	B B A	(評定)	<p>SGH事業終了後、本校がどのような方向へ向かっていくべきであるかをG-Skill研究班を中心に検討しているところである。財政的なバックアップがない中で、5年間で築いた基盤をどのように発展させるかで、SGHの真価が問われることになる。年度内に今後の方針を決め、全教職員で協力して、来年度以降もグローバルリーダー育成に努めたい。</p>																													
①② 国際交流・国際理解教育に積極的に取り組んでいる割合	生徒 90%以上 保護者 90%以上 教員 90%以上																																						
①②	生徒 89.7% 保護者 89.5% 教員 97.6%																																						
B B A																																							
② 国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る	<table border="1"> <tr> <td>①-1 海外研修の活動記録展示回数</td> <td>2回以上</td> </tr> <tr> <td>①-2 テレビ会議等を活用し、インドネシアやフランスの生徒と交流する回数</td> <td>10回以上</td> </tr> <tr> <td>②-1 国際教育振興弁論大会等の生徒参加人数</td> <td>20名以上</td> </tr> <tr> <td>②-2 国際教育振興弁論大会等の生徒入賞者数</td> <td>15名以上</td> </tr> <tr> <td>②-3 国際理解教育に関する諸行事の参加人数</td> <td>120名以上</td> </tr> <tr> <td>②-4 海外研修・海外留学に参加した(したい)生徒の割合</td> <td>60%以上</td> </tr> <tr> <td>②-5 社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数</td> <td>200名以上</td> </tr> <tr> <td>②-6 SGH発表会・課題研究発表会で英語で発表するグループの数</td> <td>5組以上</td> </tr> </table>	①-1 海外研修の活動記録展示回数	2回以上	①-2 テレビ会議等を活用し、インドネシアやフランスの生徒と交流する回数	10回以上	②-1 国際教育振興弁論大会等の生徒参加人数	20名以上	②-2 国際教育振興弁論大会等の生徒入賞者数	15名以上	②-3 国際理解教育に関する諸行事の参加人数	120名以上	②-4 海外研修・海外留学に参加した(したい)生徒の割合	60%以上	②-5 社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数	200名以上	②-6 SGH発表会・課題研究発表会で英語で発表するグループの数	5組以上	<table border="1"> <tr> <td>①-1</td> <td>3回展示</td> </tr> <tr> <td>①-2</td> <td>4回実施</td> </tr> <tr> <td>②-1</td> <td>参加者 20名</td> </tr> <tr> <td>②-2</td> <td>入賞 7名</td> </tr> <tr> <td>②-3</td> <td>参加者 185名</td> </tr> <tr> <td>②-4</td> <td>41.9%</td> </tr> <tr> <td>②-5</td> <td>270名</td> </tr> <tr> <td>②-6</td> <td>7組が発表</td> </tr> </table>	①-1	3回展示	①-2	4回実施	②-1	参加者 20名	②-2	入賞 7名	②-3	参加者 185名	②-4	41.9%	②-5	270名	②-6	7組が発表	<table border="1"> <tr> <td>A C B C A C A A</td> </tr> </table>	A C B C A C A A	<table border="1"> <tr> <td>B</td> </tr> </table>	B	学校関係者の意見
①-1 海外研修の活動記録展示回数	2回以上																																						
①-2 テレビ会議等を活用し、インドネシアやフランスの生徒と交流する回数	10回以上																																						
②-1 国際教育振興弁論大会等の生徒参加人数	20名以上																																						
②-2 国際教育振興弁論大会等の生徒入賞者数	15名以上																																						
②-3 国際理解教育に関する諸行事の参加人数	120名以上																																						
②-4 海外研修・海外留学に参加した(したい)生徒の割合	60%以上																																						
②-5 社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数	200名以上																																						
②-6 SGH発表会・課題研究発表会で英語で発表するグループの数	5組以上																																						
①-1	3回展示																																						
①-2	4回実施																																						
②-1	参加者 20名																																						
②-2	入賞 7名																																						
②-3	参加者 185名																																						
②-4	41.9%																																						
②-5	270名																																						
②-6	7組が発表																																						
A C B C A C A A																																							
B																																							
活動計画		活動計画の実施状況	(所見)		オンライン英会話の取り																																		

③地域社会, P T A, 同窓会との連携を図る	①-1 授業公開を実施回数 参加者数(合計) 700名以上	2回 801名	B	説明会など、本校への入所を希望する中学生や保護者のために、学校説明会を開催し、保護者の理解を深めたい。ホームページの更新回数も昨年度より増加した。活字の活用も充実している。今後も積極的にしていきたい。
	①-2 中学生体験入学の参加者数 中学生 700名以上 保護者・教員 200名以上	①-2 654名 222名	B	
	② ホームページの更新回数 140回以上	② 12月までに142回	A	は、ホームページの更新回数も昨年度より増加した。活字の活用も充実している。今後も積極的にしていきたい。
	③-1 地域住民, P T A及び同窓会関係者を委員とする学校支援協議会の開催回数	③-1 2回	B	
	③-2 中学生及びその保護者を対象とした、学校説明会の開催回数	③-2 2回	B	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)	学校関係者の意見
	①-1 ・休日の授業公開日と授業公開週間(平日4日間)を実施する。 ・中学校, 大学, 学校評議員, 保護者等への広報を充実させる。	①-1 ・休日の授業公開と授業公開週間(平日4日間)を実施した。 ・中学校, 大学, 学校評議員, 保護者等への広報を実施した。	教育活動の公開が学校の理解に役立っていると回答した保護者が92.4%にのぼり、授業公開や学校行事の公開等が好意的に受け止めてもらえている。体験入学や学校説明会に参加した中学生やその保護者等についても、良い印象を持ってもらえている。その反面、平日に行われる一般公開については例年同様参加者が少なかった。さらに開かれた学校として、もっと多くの人に関心をもってもらいたい。また、学校支援協議会をよりよい学校にするために活かしたい。	授業参観の案内をいただくが、日程を充分取っていただいている反面、個人では参加しづらい。個人情報もあるため、校内保護者用サイトの増設で、もっと特定された内容が示されるのではないかと。ホームページは必要な連絡情報だけでも十分でいいか。ホームページの良いところを知らせてほしい。
	①-2 中学生体験入学の実施については体験授業, 体験入部の内容や方法等について、効果的なものになるよう改善する。	①-2 中学生体験入学は体験授業, 体験入部の内容を効果的になるよう改善した。		
	② ホームページを見やすく, 使いやすいものになるよう改善に努めるとともに, 内容の更新をできるだけ速やかに行う。	② ホームページの更新回数を増やし, 生徒の活動がわかりやすくなるようにした。		
	③-1 学校支援協議会を年2回(6月, 3月)開催する。	③-1 学校支援協議会を年2回(6月, 3月)開催した。		
	③-2 学校説明会を休日に複数回実施し, 中学生や保護者が参加しやすいようにする。また, 中学校への案内や広報の方法を工夫し, 参加者を増やす。	③-2 学校説明会を休日に2回実施し, 中学生や保護者が参加しやすいようにした。また, 案内や広報を丁寧に行った。		

11 教職員の資質向上

重点目標	評価指標(と活動計画)		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	職員の職場についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①校務運営体制の効率化と充実を図る	① 教員の職務の満足度	90%以上	① 97.6%	A	(評定)	コンプライアンスや危機管理についてのアンケートでは、100%を目標とし、全員が「よく当てはまる」になるように、個々の情報管理意識を、さらなる向上させる必要がある。「育成・評価システム」
	②-1 常にコンプライアンス意識を持って勤務している割合	100%	②-1 95.1%			
②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る	②-2 教育活動に危機管理意識を持って対応できている割合	95%以上	②-2 90.2%	C		

③校内外の研修を通じて指導力の向上を図る	②-1 情報セキュリティポリシーについての研修会の実施回数 2回 ②-2 職員全体でのコンプライアンス研修会の実施回数 3回 ③-1 校内での研究授業・授業研究会参加人数 50名以上 ③-2 校内での相互参観授業週間の実施回数 2回以上 ③-3 校外での授業力向上研修参加人数 5名以上 ③-4 「育成・評価システム」を全教員対象に実施し、PDCAサイクルの構築	②-1 2回 B ②-2 3回 B ③-1 50名以上参加 B ③-2 2回 B ③-3 ウインターキャンプ [®] を含め20名参加した。 A ③-4 目標管理シートや面談を活用した。 B	B	B	に関しては、全教職員がこれに基づいて自己の向上と学校組織の現実に合わせるようにしていく必要がある。新しい大学入試制度や研修を積極的に取り入れる姿勢を育むよう、個々の教員が授業改善を進める。
活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 授業公開週間に合わせて「相互参観授業週間」を設定し、他の教員や一般の方に参観してもらったり、感想やアドバイスを書いた「参観シート」を交換したりすることで、自分の授業を客観視することができた。これを、授業改善につなげたい。また、コンプライアンス研修は、非常勤講師も含めて教職員全員で取り組むことができた。「育成・評価システム」を全教員対象に実施しているが、PDCAサイクルによる自己や組織の向上をさらに図っていきたい。			
①-1 校内組織の活性化を図るため、学年主任等を中心とした月例主任連絡会をもつ。 ①-2 校内文書情報の共有化を図り効率的な校務事務処理を構築する。 ②-1 研修会を通して、「情報セキュリティポリシー」を徹底し、確実に実行できるようにする。 ②-2 外部講師による研修会を実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。 ③-1 計画訪問等も含め、職員研修・研究授業を計画的に配置する。 ③-2 相互参観授業週間を実施し、生徒の状況把握や授業改善に役立てる。 ③-3 予備校等の授業力向上研修に参加する。 ③-4 全教員（非常勤講師を除く）が、「目標管理シート」を効果的に使用し、自らの課題や責務を客観的に捉え、明確化するとともに、次年度への改善に生かせるスキルを身につける。		①-1 学年主任等を中心として学年の活動を活性化した。 ①-2 校内文書情報の共有化を図り効率的な校務事務処理を図った。 ②-1 研修会を通して、「情報セキュリティポリシー」を徹底した。 ②-2 講師による研修会で、コンプライアンス意識の向上を図った。 ③-1 計画訪問等も含め、職員研修・研究授業を実施した。 ③-2 相互参観授業週間を実施し、生徒の状況把握や授業改善に役立てた。 ③-3 授業力向上研修に参加した。 ③-4 全教員が、「目標管理シート」を効果的に使用し、自らの課題や責務を客観的に捉え、明確化させ、次年度への改善に生かせるスキルを身につけた。	学校関係者の意見	計画をクリアされており、先生方の取り組みに感謝です。全体評価はAで良いのでは。「特にコンプライアンス意識を持っていく」の指標に対する達成度を向上させるための検討が必要だと感じた。	